

留学生の大学進学における進路決定方略と影響要因

呉 欽 鵬

現在の日本では、高等教育機関および日本語教育機関に在籍する外国人留学生数は、令和3年5月1日時点で25万人近くに達した。これからはさらなる留学生数の増加が見込まれている。こうした背景の中、留学生が最も関心を寄せている日本の大学進学問題に注目し、大学進学における意思決定の仕組みを解明することは、これから来日する留学生の参考になることの意義は大きい。

留学生の大学進学における意思決定では、複数の制約条件を同時に考慮することが必要である。しかし、ほとんどの留学生は進路決定場面に関する知識が不足しているや、大学をよく知らないうちに進学先の決定を行うなどの問題に直面している。

今まで、日本人学生を対象とした大学進学要因に関する研究は多数あるが、留学生という集団の特殊性から考えてみると、彼らの決定に影響する制約条件は必ずしも日本人学生と一致しない。留学生の進路決定に及ぼす複数の制約条件と留学生が得られた外部サポートは実際には双方向的に留学生の進学行動に影響すると考えられる。したがって、本論文の分析では因果的なモデルを構築し、複数の制約条件を乗り越えて形成した進路決定プロセスと外部サポートを得られたうえで形成したプロセスの両方を分けて検討した。

本研究では、まず進路決定方略に及ぼす要因の概念図を仮定し、それぞれの構成要因を探索的因子分析によって検討する。そして、探索的因子分析の結果に基づき、進路決定の仮説を構成し共分散構造分析を用いて、留学生がどのように複数の制約条件を越え最終的に決定に達するのか、その過程においてどのような要因が関連しているかの検定を行った。

考察の部分に、まず因子分析の結果および構築したパスモデルに踏まえ、留学生が進路選択に考慮する影響要因およびそれらの要因からの共同制約を乗り越えた後の進路決定方略の採用について、結果の部分にその存在が確認した典型的プロセスと補完的プロセスの両方を分けて、説明図を用いながら説明した。

総合考察では、結果および考察で確認した、留学生の大学進学や進学先の決定に影響する要因および利用する進路決定方略を決めるまでの過程に反映された特徴的なものをまとめて記述し総合的に考察した。

キーワード：大学入試、外国人留学生、進路決定要因、進路決定方略